

1枚の写真にさまざまな見方があることを知ろう

構成

1. 概要
2. 単元計画
3. 本時のための準備
4. 本時の流れ
5. メディアリテラシー育成のためのポイント
6. 授業レポート
7. 先生の一言 ～授業を終えて～
8. 私もやってみました！
9. 監修者の一言

1. 概要

実施校	東京都小平市立小平第五小学校
実践者	佐藤和紀 教諭
教科	小学4年生 国語科
単元	「アップとルーズで伝えよう」(全10時間)
メディアリテラシーに関わる部分の授業時間数	45分

2. 単元計画

第1次 …1時間	「アップとルーズで伝える」を読んで筆者の説明の仕方に関心を持ち、「上手な説明の仕方の工夫を見つける」という学習課題を設定して学習計画を立てる。
第2次 …4時間	段落同士の関係を考えながら読み、文章の組み立てについて考える。 (1)写真と文章の対応関係を考える (2)接続語「しかし・でも」に着目し、その前に長所、後に短所が書かれていることに気づかせ、「アップ」と「ルーズ」の伝えられること、伝えられないことをまとめる (3)対比関係にある段落を見つける (4)内容をまとめている段落を見つける
第3次 …2時間	「アップとルーズで伝える」の説明のよさをグループや学級で話し合い、「上手な説明のしかた」としてノートにまとめる。
第4次 …2時間	テレビや新聞、雑誌などで意図や目的に応じた「アップ」と「ルーズ」の使い分け方を確かめ、それぞれのよさを調べて報告し合う。
第5次 …1時間	今までの学習を振り返り、意図的にアップとルーズの写真を撮影して発表する。

本時

3. 本時のための準備



映像教材

総務省メディアリテラシー教材「TV ブラザーズのテレビ大冒険」
「1. テレビのふしぎ」の中の「テレビのテクニック」で
ウサギ、カッパ、モグラが徒競走をするシーン



テキスト教材

・『アップとルーズで伝える』（光村図書）



その他

(1) ワークシート「アップとルーズの写真を撮影して伝えよう」（別紙1）

・何を撮影するのかを決めよう（宿題）

(1) 撮影するもの

(2) 撮影する理由、見せたい理由

(3) そのための撮影の方法

・撮影した写真をクイズで発表しよう（授業）

・授業の感想を書こう（友達の発表、撮影の工夫、気づいたことなど）

(2) キーシーン掛図

映像教材は視聴するだけでなく、以下の場면을プリントアウトして、本時2、7の学習で黒板に提示するとよい

(1) 3人がスタートラインについた場面（ルーズ）

(2) 3人が走っている場面（ルーズ）

(3) モグラが転んだ場面（アップ）

(4) モグラが転び、ウサギ、カッパとの差がひらいている
場面（ルーズ）

(5) ウサギとカッパが競っている場面（アップ）

(6) ウサギがゴールした場面（アップ）

(3) タブレットPC

カメラ機能を使用（一般的なデジタルカメラでも実施可）



4. 本時の流れ

本時の目標

教科指導

アップとルーズの特徴をふまえながら、撮影の目的を考えて写真を撮影することができる。

メディア

一つの事実でも、視点を変えることでいろいろな見方があることを知る。

1. これまでの学習を振り返り、本時のめあてを知る(2分)

2. 映像教材「TVブラザーズのテレビ大冒険」を視聴(3分)

…アップとルーズの映像の特徴を再確認する

3. 宿題のワークシートで撮影するものを確認する(2分)

…アップとルーズの特徴をふまえて撮るものや目的を考える

4. 撮影機材の操作の仕方を知る(8分)

5. 写真を撮影する(12分)

6. 撮影した写真をクイズ形式で発表する(13分)

7. 感想をワークシートに記入し、発表する(5分)



授業の山場は
9ページ

…アップとルーズの特徴
をふまえて回答する

…1枚の写真にさまざまな見方があることに気づく

教科指導

教科指導の観点

メディア

メディアリテラシー教育の観点

5. メディアリテラシー育成のためのポイント

ポイント 撮影機材はデジタルカメラでもOK!

今回はタブレットPCを使って写真を撮影しましたが、一般的なデジタルカメラでも実施できます。

ポイント メディアリテラシー教育の「初めの一歩」に

アップとルーズの写真を意図的に撮影し、発表することを通して、情報の送り手側を体験させることができます。それにより「情報の制作者は意図を持って現実を構成している」ことを理解させ、メディアリテラシー教育の第一歩とすることができます。

6. 授業レポート

1. これまでの学習を振り返り、本時のめあてを知る(2分)

- 「アップとルーズで伝えよう」と板書。

これまでの授業で、アップとルーズで撮った写真や映像の特徴について学んだよね。アップの特徴を教えてください。

「細かい部分がわかる」「一部がよくわかる」「まわりまでは見えない」

- 児童の意見を板書。

ルーズには、どんな特徴がありましたか。

「まわりはよく見えるけど、表情は見えない」「広い範囲が見える」

- 児童の意見を板書。

いい意見が出ましたね。では、今日のめあてを書きます。

- 授業のめあて「アップ・ルーズの写真撮ってクイズで伝えよう」を板書し、全員で声に出して読む。



● 指導教諭のポイントアドバイス

メディア

・教科書に掲載されているアップとルーズの写真 프로젝ター等で拡大して見せてもよいでしょう。

教科指導

・『アップとルーズで伝える』の内容をしっかりと読み込めていないと、写真を撮った時にアップなのかルーズなのかわからないといった状態に陥ってしまいます。本時までの振り返りをしっかりと行いましょう。

2. 映像教材「TVブラザーズのテレビ大冒険」を視聴する(3分)

これからビデオを見て、アップとルーズについてもう一度考えてみたいと思います。どんな物語なのか、よく見てください。

— 「TV ブラザーズのテレビ大冒険」を繰り返し3回視聴。

誰が出てきましたか？

「モグラくん」「ウサギさん」「カッパくん」

— ビデオの映像を6つの場面別にプリントアウトしたものを時系列に並べて提示。

物語をふりかえってみましょう。モグラくん、ウサギさん、カッパくんの3人が、よーい、どん、で走り出しました。次に何がありましたか。

「モグラくんが転んだ」

モグラくんが転んで、カッパくんとウサギさんが競っていたよね。そのあと、どうなったかな。

「ウサギさんがゴールした」

そうだったね。では、1番の場面は何を伝えようとしていますか。

「みんなが走ろうとしているところ」

これはアップですか、ルーズですか。

「ルーズです」

正解。では、2番のシーンは何を伝えようとしていますか。

「走っているところ」

これはアップ、ルーズどっちかな。

「ルーズです」

そうだね。では3番。転んだモグラくんをアップにしているけど、これは何を伝えたいんだと思う？

「痛がっている」



— 4番～6番も同様に質問し、児童に発言させる。

それぞれの写真から、アップとルーズの違いや、何を伝えようとしているかがわかったね。

●指導教諭のポイントアドバイス

メディア

・アップとルーズの特徴をふまえて発言させます。意見が出ないときは、考えさせたいところでビデオを止めて質問してもよいでしょう。

教科指導

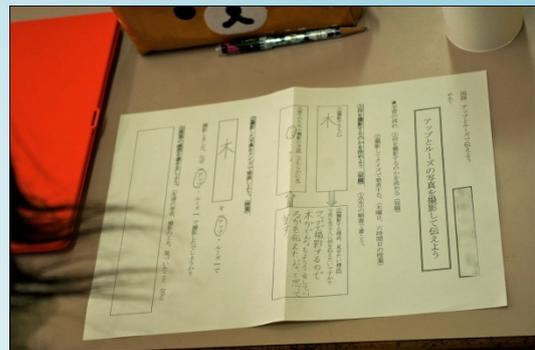
・内容をしっかりと理解させるため、ビデオは2、3回見せましょう。

3. 宿題のワークシートで撮影するものを確認する（2分）

今日はめあての通り、みんなに写真を撮ってもらいます。何を撮るのかは、宿題のワークシートに書いてきているよね。

— 児童が撮影するものをワークシートで確認。

一番のポイントは「なぜ、それを撮るのか」ということです。先ほどのビデオでも、転んだモグラくんの悔しそうな様子をアップで撮って伝えていましたが、「何をアップで伝えたいか」「何をルーズで伝えたいか」というところまで考えて写真を撮りましょう。



●指導教諭のポイントアドバイス

メディア

・本時では「友達に伝える」という設定で撮るものを考えさせましたが、伝えたい人を自由に想定させると、被写体や撮影方法の選択により広がりが出るでしょう。
・人を撮る場合は使用目的を伝え、許可を得るように指示しましょう。

教科指導

・アップとルーズの特徴をふまえて撮影するものや撮影の意図が書かれているかを確認しましょう。

4. 撮影機材の操作の仕方を知る(8分)

撮影に使うタブレットPCの操作の仕方を覚えましょう。

— タブレットPCの使い方を説明した後、教室の写真をルーズで撮り、プロジェクターの画面に表示する。

これはアップですか、ルーズですか。

「ルーズです」

今度はアップで撮ってみます。

— 生徒の1人がノートをとっているところをアップで写し、プロジェクターの画面に表示する。

まじめに勉強しているように見えるよね。表情を伝えたいなら、ここまで近づいて撮るといいね。では、これをルーズで撮ってみると……。

— 先ほどの生徒がノートをとっているところをルーズで写す。

周りのみんなは先生の話の話を聞いているのに、彼1人だけ別のことをしていることが伝わるよね。こういう風に伝えたいことを考えて撮影しましょう。

— もう一度タブレットPCの使い方を説明して操作を覚えさせ、2人に1台ずつ機材を配る。

一度、写真を撮る練習をします。隣の席の人の写真を撮り、再生して見てみましょう。

— 児童が写真を撮り、撮った写真を確認する。



● 指導教諭のポイントアドバイス

メディア

・本時ではタブレットPCを使用していますが、デジタルカメラでも実施は可能です。

教科指導

・短時間で機材の使い方を覚えさせるために、プロジェクター等で操作方法を見せながら説明すると良いでしょう。

5. 写真を撮影する（12分）

これから隣の席の人と2人1組で撮影に行きますが、その前に、もう一度アップとルーズの例を確認して、ワークシートを見直しましょう。

— 教師が事前に撮影しておいたアップとルーズの写真を提示。それぞれの写真で何を伝えようとしているのか質問し、児童に発言させる。

では、ワークシートをタブレットPCを持って、写真を撮りに行きましょう。

— どこまで撮影に行くか児童に確認し、撮影時間（10分）を指定する。

2人で1枚ずつ撮って、時間までに帰ってきてください。大事なものは、その写真を撮る理由です。理由を変更したいな、という人は、あとで書き直してください。

— 教室や校庭、ベランダなど、児童が思いおもいの場所へ撮影に出掛ける。教師は児童の撮影場所を巡回して指導する。



● 指導教諭のポイントアドバイス

メディア

・アップとルーズの特徴や撮影の目的をふまえて写真を撮っているかを確認しましょう。

教科指導

・時間通りに戻ってくるように伝えましょう。
・児童の撮影場所を巡回し、問題なく機材を操作できているか確認しましょう。

6. 撮影した写真をクイズ形式で発表する (13分)

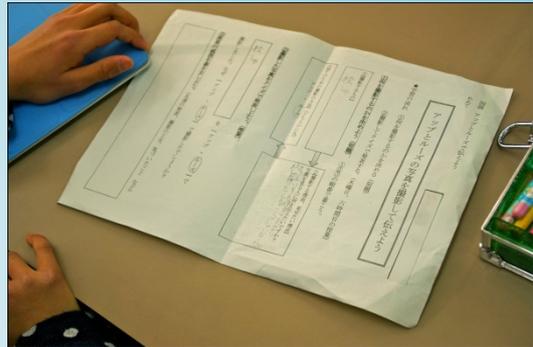
授業の山場!

ワークシートの2番「撮影した写真をクイズで発表しよう」を書いてください。

— ワークシートを記入。

では、みんなを代表して発表してくれる人はいますか。

— あてられた児童が前に出る。児童の撮った写真をプロジェクター画面に映す。



みなさんにクイズを出してください。

「葉っぱをアップで撮影しました。なぜアップで撮影したと思いますか？」

わかる人はいますか。

「葉っぱの線（葉脈）をみんなに見せたかったから」

正解です、拍手！ クイズで正解が出たら、その写真は成功です。伝えたかったことが伝わったということだからね。では、もう1人発表してもらいましょう。

— もう1人児童を指名し、前で発表させる。児童の撮った写真をプロジェクター画面に映す。



「木をアップで撮影しました。なぜアップで撮影したのでしょうか？」

— 手を挙げた児童の中から教師が指名。

「木の表面の模様がおもしろそうだから」

ちょっと違うみたいだね。他の意見はありますか。

「木の筋を伝えたかったから」

正解！ いつものグループに別れて、こんな風に発表してみよう。

— グループに別に机をつなげて児童同士で発表。教師は各グループを回って発表の様子を確認する。



● 指導教諭のポイントアドバイス

メディア

- ・「〇〇をアップ／ルーズで撮影しました。なぜ、アップ／ルーズで撮影したと思いますか？」という形式で発問させることで、「なぜ、それを撮ったのか」という撮影の意図を考えさせ、アップとルーズの特徴をふまえた回答を導きましょう。
- ・グループ発表でも、上記の点に注意して机間巡回指導を行きましょう。

教科指導

- ・子ども同士で発表させる前に、クイズの見本として何人かの児童に発表させるとよいでしょう。時間が足りない場合は、教師があらかじめ撮っておいた写真を使って見本を見せましょう。

7. 感想をワークシートに記入し、発表する (5分)

発表が終わったグループから、ワークシートの3番に今日の授業の感想を書いてください。

— 児童がワークシートに感想を記入。

写真で伝えたかったことを当ててもらえた人、手を挙げて。

— 半数ほどの生徒が挙手。

当ててもらえなかった人もいますが、そんなにがっかりしないでください。なぜかという、1枚の写真で伝えたいことを表現するのは、とても難しいことだからです。もう一度、この写真を見てください。

— ビデオの映像を場面別にプリントアウトしたものの中から、3番のモグラが転んでいるカットを提示。

モグラくんは何をしていると思う？

「転んでいる」

転んでいると思ったのは、どうしてですか。

「倒れてるから」

でも、転んで倒れているんじゃなくて、疲れて寝ているのかもしれないよ。なぜ、みんながカッパくんが転んだことがわかるのかという、このシーンがあるからだよね。

— ウサギ、カッパ、モグラの3人が走っている2番のカットを提示。

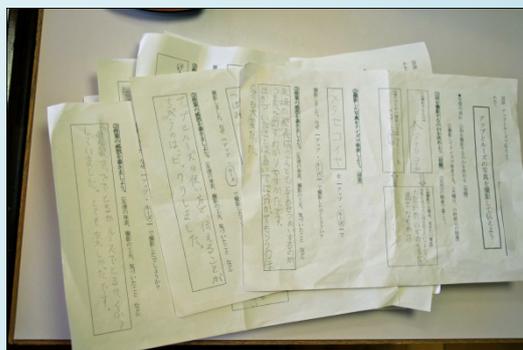
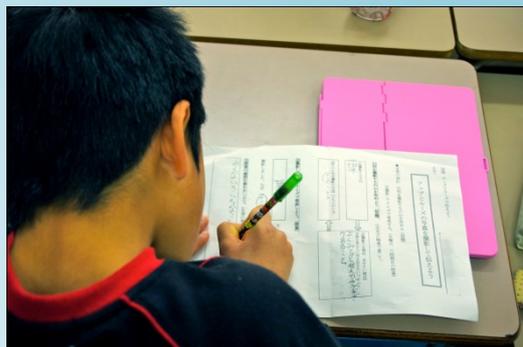
「うん」

だけど、転んでいるモグラくんの写真だけを見て転んでいるかどうかを見分けるのは、意外に難しいよね。写真というのは、何枚もあった方が伝わりやすいものなんです。だから、1枚の写真で相手に伝えることができたというのは、すごいことなんだよ。

それでは、ワークシートに書いた感想を発表してもらいましょう。

「1枚の写真だけで撮った人が伝えたいことを当てるのは難しかった」「何を伝えたいのか、何を撮るのかを考えるのが大変だった」「みんながいろいろなことを伝えようとしていておもしろかった」

では、これで終わります。タブレットPCを返して、ワークシートを提出してください。



●指導教諭のポイントアドバイス

メディア

- ・複数の児童に授業の感想を發表させ、1枚の写真にさまざまな見方があるということへの気づきを与えましょう。
- ・本時では映像教材のカットを使い、写真を2枚並べることで1枚の写真を見ているときとは見え方が違ってきたり、伝えたいことがより明確になるということを説明しました。もっと時間をかけて授業を行う場合は、もう1枚写真を撮らせ、2枚の写真でストーリーを作らせるといった体験を通して考えさせると、より理解が深まるでしょう。

映像教材と タブレットPCを活用して 写真に込められた意図を 楽しく学ばせる

今 日の授業の子どもたちの様子はどうでしたか。

◆子どもたちの興味や期待感が感じられた

タブレットPCで写真を撮るということは子どもたちにとって初めての体験ですから、「早く撮りたい!」という期待が感じられました。そこから授業への興味が生まれ、話もしっかり聞いていたと思います。

授 業で工夫されたことは何ですか。

◆前時に宿題を出して授業を効率化

本時では、これまでの学習の振り返りと、写真を撮って意図を伝えるという体験に時間をかけたいと思っていました。そのため、撮影するものや撮影する理由、アップ・ルーズの撮影方法の選択といった撮影前の準備については、本時までには宿題として決めさせておきました。

◆クイズ形式で発表を活性化

「発表してください」では一方的な感じがしますし、子どもたちも説明に困ってしまいます。かといって「こういう理由でこの写真を撮りました。何か質問ありますか」と先に答えを言うやり方では質問が出てこない気がしたので、「この写真で何を伝えたかったのでしょうか」というクイズ形式で発表させてみました。質問や回答もしやすいですし、一番大事な撮影の意図にポイントを絞って考えさせることができたと思います。

◆ワークシートの設問にひと工夫して具体的な感想を引き出す

ワークシートに「授業の感想を書きましょう」と指示しただけでは、子どもたちは焦点が絞れず、「おもしろかった」としか書いてくれません。そのため、友達の発表や撮影の工夫など書いてほしい感想の例をワークシートに記載して、何がおもしろかったかのかを具体的に書かせるようにしました。



佐藤和紀 教諭

(東京都小平市立
小平第五小学校)



も

っと時間をかけて授業ができる場合、どんなことを実施すればよいですか。

◆もう1枚写真を撮り、2枚の写真でストーリーを作らせる

本時では、映像教材の中でカップくんが転んだシーンと、その前の3人が走っているシーンを使い、写真を2枚並べることで1枚の写真を見ているときとは見え方が違ってくことや、伝えたいことがより明確になるということを説明しました。ここをもっと広げて、最初に撮った写真にもう1枚写真を追加で撮らせてストーリーを作らせるなど、体験を通して考えさせるとよいでしょう。



◆写真を撮って意図を伝える体験を単元全体で2回行う

単元全体としては、5時間目の本時以外にも写真を撮って意図を伝える体験を組み込んで、計2回行うとよいですね。アップとルーズの写真と文章を対応させて読み取った2時間目の振り返りとして、3時間目に一度体験させ、本時で単元全体の学習の確認として再度実施すると、情報の発信側が写真を撮った真意というものを、より深く読み解れるようになるのではないかと思います。

二

の授業を実施してよかったですか。よかった点について教えてください。

◆授業の流れに乗って積極的に発言できていた

内容を盛り込みすぎたかな、とも思いましたが、子どもたちが積極的に手を挙げて発言してくれたので、よかったです。最初にこれまでの学習の振り返りをしっかりと行ったことで、子どもたちが授業の流れにうまく乗っていったのではないかと思います。

8. 私もやってみました！

子どもの意識を集中させ 学習効果を高める 教材選びがポイント

- これまでメディアリテラシー教育に
— どのようなイメージをお持ちでしたか？

◆メディアリテラシー教育の必要性が高まっている

デジタル機器を使いこなすという点では、教える側より子どもたちの方が先に行ってしまうという感覚がありますが、メディアが子どもたちに与える悪影響も出てきているな、と感じていました。今後、子どもたちが成長するにしたがってメディアの影の部分にふれる機会も増えていくでしょうから、小学生の今から意図的にメディアリテラシーを育成していくことは大切だと思います。



西島尚子 主任教諭

(東京都小平市立
小平第五小学校)

授業を始める前に不安なことはありましたか？

◆スムーズに授業を進めるには機材への慣れも必要

私は教員生活 30 年で、デジタル機器には不慣れなものですから、機材の操作が一番不安でしたね。何かトラブルがあれば対応するのに時間がかかりますし、そうすると子どもたちの集中が途切れてダレてしまいますから。でも、問題なく乗り切れましたし、タブレット PC を使うことで子どもたち全員が作業に参加でき、グループワークが活性化したので、非常によかったですと思います。



今日 日の授業の子どもたちの様子はどうでしたか。

◆いつもよりも張り切って取り組んでいた

子どもたちが普段より張り切って授業に取り組んでいるように感じました。着ぐるみを着た登場人物が徒競走をするという内容の楽しさから、ビデオ教材への反応もよかったですと思います。



- れからメディアリテラシー教育を始める先生方へ
— アドバイスやメッセージをお願いします。

◆苦手意識を持たず、日頃から機材に慣れておくことが大事

今回、初めてメディアリテラシーの授業を行いました。子どもたちの興味を引く教材を使えたことと、実際に写真を撮るといった教科書にはない視点でアップとルーズについて考えさせることができたことに魅力を感じました。



また、機材を使って授業をすることも、自分にとって得るものが大きかったですね。機材を使いこなすには経験が必要ですから、苦手意識を持たずに日頃から練習しておくことで、自信も出てくると思います。学校で機材に触れるだけでなく、タブレットPCなどは自宅で使って慣れておくとういすね。

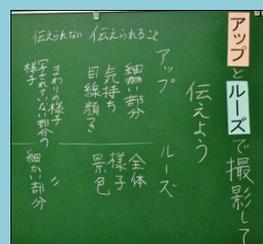
◆アップ・ルーズ両方のよさを体験させる工夫を

今回は天候の関係で急遽屋内のみの撮影となりましたが、そういった場合を想定して、屋内で撮るもの、屋外で撮るものの両方を決めさせておくとういすでしょう。また、屋内撮影ではアップの写真が増える傾向にあるので、ルーズのよさに気づかせたい場合は、屋外の広い空間で撮らせるとよいかもしれません。逆に、あえて屋内でルーズで撮る、屋外でルーズで撮るといった課題を与えても、アップ・ルーズ両方のよさを体験させることができるといす思います。

●ここを工夫しました！

1. これまでの学習を振り返り、本時のめあてを知る(2分)

…アップ・ルーズの特徴を細部までしっかり認識させる
前時までの振り返りでは、アップ・ルーズで伝えられることだけでなく、伝えられないことも発言させました。そうすることで、「アップとルーズは逆なんだ、片方ではできることがもう一方ではできないんだ」ということへの理解をより深めることができるといす思います。



2. 映像教材「TVブラザーズのテレビ大冒険」を視聴(3分)

…2回目の視聴ではアップとルーズを意識させる
ただ繰り返してビデオを視聴させるのではなく、2回目はアップとルーズを意識して見せるようにしました。



3. 宿題のワークシートで撮影するものを確認する(2分)

4. 撮影機材の操作の仕方を知る(8分)

5. 写真を撮影する(12分)

6. 撮影した写真をクイズ形式で発表する(13分)

…考えてほしいポイントを強調して伝える
写真のおもしろさなどに気を取られて授業の流れから脱線してしまわないように、「どういう意図を持ってその写真を撮ったのか」というポイントを意識して発問・回答することを強調して伝えました。

…クイズに参加してグループワークを活性化
グループ別に子ども同士で発表する際の机間巡回指導では、自分もグループの1人となってクイズに答えることで、発表を活性化するように心がけました。



7. 感想をワークシートに記入し、発表する(5分)

「メディアリテラシーわかるわからないまぜまぜ期」

メディア

での本実践の意義

昭和女子大学 初等教育学科
駒谷真美 准教授

本実践の対象は、児童期中期に属する小学校中学年です。メディアリテラシーの発達段階では、わかるわからないまぜまぜ期（基礎的理解混同期）に該当します*。顕著な特徴として、番組の登場人物を見た目ではなく行動で判断できる半面、マジックウィンドウの視点を完全に払拭できていません。例えば、ドラマが作られたものであることなど基本的な現実性の理解はありますが、アクションが戦っているふりをしているという認識は低いのです。CMは「おおげさに伝えている（誇張性）」と思う児童と「常に真実を伝えている（真実性）」と思う児童に理解が分かれ、未だ混同している時期です。CMの登場人物について空想と現実の理解が曖昧で、説明は不確かな部分もあります。

上記の特徴を踏まえたメディアリテラシー教育の到達目標としては、「①カメラアングルや被写体からの距離を認識でき、視聴者の視点からそれらの効果を説明できる ②身近な環境で遭遇する様々な広告のタイプを認識・説明できる ③多様なメディア作品を作ることができる」ことが挙げられ**、***、メディア作品の制作体験を通して、基礎的理解の定着化が望まれます。

本実践では、単元『アップとルーズで伝える』を読み解くこと（前出の児童期前期のメディアリテラシー教育の到達目標①）から始まり、メディア作品の制作方法と表現方法を具体的に理解し（今期の目標①・②）、「TVブラザーズのテレビ大冒険」（1. テレビのふしぎ）をヒントに用いて、最新メディア機器のタブレットPCを活用した写真撮影を実践したこと（前期の目標②・今期の目標③）により、わかるわからないまぜまぜ期の児童のメディアリテラシーが、継続的に促進されると考えられます。

- * 駒谷真美. (2012). 『わくわくメディア探検 子どものメディアリテラシー～メディアと楽しく上手につきあうコツ～』. 東京：同文書院.
- ** Ontario Media Literacy. (2006). Retrieved March, 15, 2006, from <http://www.angelfire.com/ms/MediaLiteracy/>.
- *** Ontario Ministry of Education. (2006). Retrieved March, 15, 2006, from <http://www.edu.gov.on.ca/eng/document/policy/achievement/charts1to12.pdf>.

事象のどこをどう切り取って伝えるのか

教科指導

東京学芸大学 人文社会科学系
日本語・日本文学研究講座 国語科教育学分野
中村和弘 准教授

話したり書いたりするときに意外と見落とされているのは、話題や課題の設定に対する指導です。どう話すか、どう書くかの前に、何について話すのか、書くのかという点が重要です。伝えたい物事やメッセージを、どう焦点化するかということです。

こう考えると、「アップ」「ルーズ」というのは、単に写真の撮り方の問題ではなく、物事をどう切り取りメッセージ化するかという、コミュニケーションの根本に関わることだと思えてきます。写真は、それらのことを学ぶのに最も適した手段であるといえます。

全体を伝えるのか、部分を伝えるのか。部分を伝えるのであれば、どの部分なのか。その部分を効果的に伝えるにはどう工夫したらいいのか。タブレットPCを使って写真を撮りクイズ形式で発表するという、子どもたちにとっても楽しく取り組めるこの活動は、その先に、コミュニケーションというもっと大きな課題を見据えています。